

登別市郷土資料館では、登別市の指定文化財や市民から寄贈を受けた多くの貴重な資料を展示しています。

■ 自然史 Nature History



登別市内で発見された約700万年前から北海道に出現したとされるタカハシホタテや、約4.3万年前のクッタラ火山の噴火で炭化した貴重なトマツが展示されています。トマツは、「登別化石林の炭化木(トマツ)」として市の指定文化財となっています。

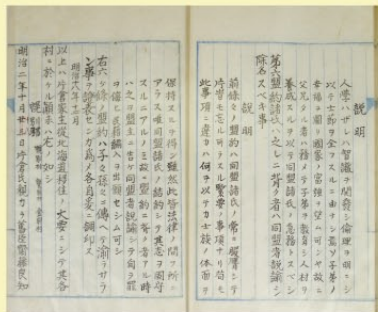
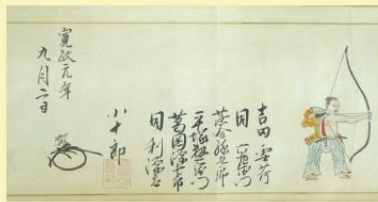
また、ヒグマなどの野生動物の剥製から、その大きさや姿を間近で感じられます。

■ むかしの生活 Life in the past



明治から昭和にかけて使用された、衣食住に関わる様々な生活道具や、登別温泉の歴史や林業・漁業など産業の道具があり、「むかし」の生活を知ることができます。

■ 武士たちの移住 Immigration of samurais



慶応4年(1868)の江戸幕府と明治新政府による戊辰戦争で敗者となった仙台藩は、所領が減られることに伴い、多くの家臣に対し帰農することを奨励しました。

仙台藩の重臣片倉家の家臣の多くは、武士身分を保持したまま明治3年(1870)に北海道へ移住し、主従ともども開墾に尽力しました。当主 景光・タケ夫妻の野良着などは開拓当時を知る貴重な資料です。

江戸時代の武術書や移住の状況を記した「明治二年以降片倉家北海道移住顛末」は市の指定文化財となっています。

■ アイヌ文化 Ainu Culture



登別市は、アイヌ語学者の知里真志保や、『アイヌ神謡集』を記した姉幸恵、ユカラなどの言葉で語り継がれてきた物語をローマ字で記録した伯母金成マツを輩出したまちです。

市の指定文化財『幌別村役場文書』からは、地域のアイヌ民族の歩みがわかり、道具からは製作(使用)した人物を通してアイヌ文化を知ることができます。

■ 温泉のまち、登別 Town of onsen, Noboribetsu



登別市には、ザ・ドリフターズの「♪いい湯だな」でも知られる“登別温泉”と、その奥座敷とも言える“カルルス温泉”があります。

登別温泉は、19世紀中頃には温泉までの道が開かれ、大正期に大きく発展します。カルルス温泉は、明治32年(1899)に開業しました。

登別温泉は古くから全国的に知られていたため、政財界の名士や文豪、著名な詩人などの往来が盛んで、数多くの揮毫が残されています。